

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和7年6月
NO. 2



6月は梅雨の季節。

これ以後約1か月間は雨の多い日が続きます。

屋外活動のできない日は、図書室で読書を楽しんでみませんか？

みなさんがたくさん本と出会えるよう、図書室では新着図書を揃えてお待ちしています。

小論文対策コーナーの紹介

図書室では小論文対策の為の特設コーナーを設けました。
小論文の書き方や小論文を書くために読んでおきたい
新書があります。
まずは手に取ってみてください。



新着本紹介

『カフネ』

阿部暁子／著 講談社

書籍紹介：2025年 本屋大賞1位

一緒に生きよう。あなたがいると、きっとおいしい。やさしくも、せつない。
この物語は、心にそっと寄り添ってくれる。

法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆にくれていた。弟が遺した遺言書から弟の元恋人・小野寺せつなに会い、やがて彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに。弟を亡くした薫子と弟の元恋人せつな。食べることを通じて、二人の距離は次第に縮まっていく。

『アルプス席の母』

早見和真／著 小学館

書籍紹介：2025年 本屋大賞2位

秋山菜々子は、神奈川で看護師をしながら一人息子の航太郎を育てていた。湘南のシニアリーグで活躍する航太郎には関東一円からスカウトが来ていたが、選び取ったのはとある大阪の新興校だった。声のかからなかった甲子園常連校を倒すことを夢見て。息子とともに、菜々子もまた大阪に拠点を移すことを決意する。不慣れな土地での暮らし、厳しい父母会の掟、激瘦せしていく息子。果たしてふたりの夢は叶うのか!?

『小説』

野崎まど／著 講談社

書籍紹介：2025年 本屋大賞3位

五歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。12歳になると、内海集司は小説の魅力を共有できる生涯の友・外崎真と出会い、二人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込む。そこでは好きなだけ本を読んでいても怒られることはなく、小説家・髭先生は二人の小説世界をさらに豊かにしていく。しかし、その屋敷にはある秘密があった。小説を書くことで失われる世界の均衡、読むことで広がる無限の心。

『禁忌の子』

山口末桜／著 東京創元社

書籍紹介：2025年 本屋大賞4位

救急医・武田の元に搬送されてきた、一体の溺死体。その身元不明の遺体「キュウキュウ十二」は、なんと武田と瓜二つであった。彼はなぜ死んだのか、そして自身との関係は何なのか、武田は旧友で医師の城崎と共に調査を始める。しかし鍵を握る人物に会おうとした矢先、相手が密室内で死体となって発見されてしまう。自らのルーツを辿った先にある、思いもよらぬ真相とは――。過去と現在が交錯する、医療×本格ミステリ！

『人魚が逃げた』

青山美智子／著 PHP 研究社

書籍紹介：2025年 本屋大賞5位

小説を愛するすべての人に、この嘘を捧ぐ。あの三月の週末、SNS上で「人魚が逃げた」という言葉がトレンド入りした。どうやら「王子」と名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい歩き、「僕の人魚が、いなくなってしまっ…逃げたんだ。この場所に」と語っているらしい。彼の不可解な言動に、人々はだんだん興味を持ち始め。そしてその「人魚騒動」の裏では、五人の男女が「人生の節目」を迎えていた。銀座を訪れた五人を待ち受ける意外な運命とは。「王子」は人魚と再会できるのか。そもそも人魚はいるのか、いないのか…。

- ★『Spring』 恩田陸/著 筑摩書房
- ★『アンパンマンの遺書』 やなせたかし/著 岩波書店
- ★『人生の壁』 養老孟司/著 新潮社
- ★『恋とか愛とかやさしさなら』 一穂ミチ/著 小学館
- ★『生殖記』 朝井リョウ/著 小学館
- ★『君は月夜に光り輝く』 佐野徹夜/著 KADOKAWA
- ★『星の教室』 高田郁/著 角川春樹事務所
- ★『君が夏を走らせる』 瀬尾まいこ/著 新潮社
- ★『死んだ山田と教室』 金子玲介/著 講談社
- ★『対馬の海に沈む』 窪田新之助/著 集英社
- ★『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈/著 新潮社
- ★『春はまた来る』 真下みこと/著 幻冬舎
- ★『C線上のアリア』 湊かなえ/著 朝日新聞出版
- ★『家族の言い訳』 森浩美/著 双葉社
- ★『江戸の町と暮らし』 安藤優一郎/著 河出書房新社
- ★『月収』 原田ひ香/著 中央公論新社
- ★『図解で学ぶめくるめく日本語史の世界』 今野真二/著 淡交社
- ★『余命1年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』 森田碧/著 ポプラ社
- ★『問題。以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい』 早見和真/著 朝日新聞出版社

など…